

	大項目	評価	特に優れている事項	今後取り組みが望まれる事項
	人権への配慮	a	<p>子ども達が自由に意見を発言する雰囲気があります。一人ひとりの意見を受け止め、他の子どもの気持ちや意見が聞けるよう声掛けや見守りをしています。一人ひとりを尊重することについて幼児クラスでは、折に触れて話し合う場を設け気づきの促しをしています。人権への配慮やお互いの尊重については、子ども達同士で差別をしないように指導しました。配慮に怠りがないように注意しています。性差については、子ども達に分かりやすいよう保育の中で教えています。</p> <p>個人のプライバシー情報等の機密情報の守秘義務に関して講習を実施して職員の意識強化を図っています。個人ファイルは鍵をかけて管理しています。児童虐待と疑われるような兆候を見つけた時には、すぐに報告する体制があり保健福祉センターなど関係機関と連携して対応しています。安全点検や衛生管理は、必ず職員3～4名で見まわるなど出張等で対応できない時にもなおざりにしない取り組みをしています。</p>	<p>両親のどちらかが外国人という子どもについては、他国の生活習慣や考え方について、歴史的・社会的背景を理解し相互に尊重する心を育てる取り組みを期待します。</p> <p>虐待に対応するマニュアルが整備されています。マニュアルを活用することで、職員の共通意識の一層の強化につながることを期待します。</p>
	利用者の主体性・個性の尊重	a	<p>利用者満足度の向上の取り組みとして、年齢や個々の状況に合わせて受け入れています。受容の仕方についても職員間で一貫性をもてるように努め、クラス専任でない職員がパイプ役となるフォロー体制を整えています。</p> <p>基本的な生活習慣については、子どもの自主性を尊重し、一人ひとりの発達に応じた援助・支援をしています。</p> <p>子どもの発達、健康、生活状況については、登園時に保護者に伝えることを心がけ、乳児は連絡帳を使用し、幼児は必要に応じ手紙で知らせて家庭との連携を図っています。</p> <p>延長保育の引継ぎは、園独自の保育引き継ぎ票を活用しています。怪我などのケースでは保護者に確実に状況を説明し、いつでも保護者が気軽に相談できるように信頼関係の構築に努めています。</p> <p>保護者の参観は、保護者の都合に合わせていつでも可能です。祖父母にも声をかけて積極的にを行っています。</p> <p>行事や懇談会は、保護者が参加しやすいように事前に、園だよりや手紙で知らせています。行事後にアンケートを実施して、保護者の感想や意見を次回の参考にしています。</p>	<p>園行事の参加は幼児クラスからです。乳児クラスの保護者の参加希望が多くあるようです。乳児クラスの参加の検討を期待します。</p>
	サービス管理システムの確立	a	<p>毎年定期的開催している保護者説明会やクラス別懇談会で保護者の意見、要望、苦情を確認しています。苦情窓口、苦情対応責任者を掲示し保護者に周知しています。また、苦情対応第三者委員を定めて苦情対応の透明性を高めています。</p> <p>今回の第三者評価の実施は、園長のサービスの質の向上に対する前向きな姿勢とリーダーシップの成果であると思われま。自己評価の実施に際しては、職員全員が評価項目ごとにチェックし園のサービス状況の確認と課題についての意識合わせを行いました。</p> <p>「川崎市子どもの権利に関する条例」を遵守し、人間として大切な子どもの7つの権利を保障することを、園の保育基本方針に謳っています。指導計画は保育基本方針に基づき、子どものケース検討記録とリンクして、一人ひとりの子どもの特質に配慮して作成されています。また、毎月の遂行状況を評価し、指導計画の反省欄に評価結果を記述しています。職員会議で指導計画の評価状況を検討して、次の指導計画に活かすようにしています。</p> <p>常に子どもの最善の利益を念頭に置いて、将来の人を育てるという視点で、園長の保育サービスの考え方が職員に徹底しています。</p>	

	大項目	評価	特に優れている事項	今後取り組みが望まれる事項
	危機管理体制の確立	a	<p>災害発生時の危機管理マニュアルがあり、緊急時の対応フローを整備しています。毎月非難訓練を実施しています。訓練は点検項目を明確にして訓練の状況をチェックしています。</p> <p>散歩マニュアルには散歩時の防犯、事故防止の記述があります。衛生管理チェックリストを用いて衛生管理上の事故防止に努めています。ヒヤリハット管理の仕組みがあり、職員の気づき情報がクラス別に集計・分析されて事故防止に活かされています。</p> <p>事故発生時の対応については、「園のしおり」に記述して保護者に周知しています。保護者に対する緊急連絡表を整備して、事故発生時の緊急連絡を行なっています。緊急時の医療機関への連絡については、園医や救急医療院の連絡先を事務室に掲示して、緊急時の対応に備えています。災害発生時の園の災害避難場所及び広域避難場所を園のしおりに掲載して、保護者や関係者に周知しています。</p>	
	地域との交流・連携	b	<p>幼児教育センター主催による話し合いで、小学校への見学や情報交流が進んでいます。小・中学生の職場体験学習の生徒やボランティア学生を受け入れています。実習生受け入れと体験ボランティアオリエンテーションのマニュアルが整備されています。実習生の受け入れは異年齢交流の機会と捉え、また、子ども達が実習生の来訪時は表情が豊かになるということも踏まえて積極的に対応しています。</p> <p>地域住民との良好な関係が保たれています。地域住民にさつま芋畑の提供を受けたり、散歩コースに個人の庭園を開放してもらったりしています。</p> <p>家庭保育福祉員との連携保育の協力体制があります。家庭で子育てをしている親子に園庭を開放したり、園の行事への参加を呼びかけたりして地域連携を推進しています。</p>	<p>民生・児童委員との協力関係の強化に努めていますが、必ずしも満足のいく結果ではありません。関係強化にむけての一層の努力を期待します。</p>
	運営上の透明性の確保と継続性	a	<p>保育理念や保育基本方針を明文化して職員に周知しています。園のしおりに掲載して保護者への周知を図っています。</p> <p>保育計画は保育理念、保育基本方針に基づき作成しています。毎年定期的開催する保護者説明会やクラス別懇談会での保護者の意見や要望を保育計画に活かしています。</p> <p>保護者に対する園情報の提供は、年に1回開催の保護者説明会やクラス別懇談会で実施しています。園だよりや各種行事のパンフレット、掲示板を活用して保護者や地域住民に園の活動情報を提供しています。園だよりは保護者に配布するだけでなく、地域の関係機関や関係者に配布して園の活動内容を紹介しています。</p> <p>運営改善の課題はリーダ会議、職員会議で提起し対策を検討しています。課題対策の実施状況については、期ごとに見直しを行っています。年に1回家族アンケートを実施して保護者の施設運営に関する要望や課題の把握に努めています。</p>	

	大項目	評価	特に優れている事項	今後取り組みが望まれる事項
	職員の資質の向上	a	<p>研修計画及び研修の実施は職員の経験年数を考慮し、市の指導に従って実施しています。研修内容も保育士、栄養士研修、調理や食品衛生に関するものなど多岐に及んでいます。職員の担当職務の決定について、本人の希望を尊重する仕組みがあります。人材育成計画には職員の意見・希望を反映するように努めています。</p> <p>年に4回園長が職員と個別に面談して、職員の就業に関する意見や希望の確認を行なっています。職員が意見を自由に言える仕組みがあります。毎月の全体職員会議の場が園の運営状況、保育状況の反省と評価を行なう場になっています。評価項目を事前に設定して、週ごとに乳児、幼児のグループごとの評価を行なっています。</p>	<p>研修はニーズを前もって把握し、市の主導で実施していますが、より職員の保育現場のニーズに沿った木目細かな対応が望まれます。</p>
	サービスの実施内容	a	<p>健康に関することは、「川崎市保育園健康マニュアル」に沿って、看護師と保育士が連携して、利用者の日々の視診や保健日誌への記載をしています。健康診断の結果報告について、「すこやか手帳」を見直し、園独自の取り組みにて保護者に迅速かつ正確に伝えていきます。</p> <p>除去食については、看護師や栄養士、保育士が確認し個人記録に記載し周知しています。</p> <p>毎日の給食は、食材、食器、衛生管理に配慮しています。衛生面については、給食の手引き、衛生管理チェックリストや園独自の給食作業マニュアルがあります。</p> <p>特に食材への関心や食べる意欲を育てる取り組み及び食事マナーの指導については創意工夫があります。調理担当者との喫食も子ども達により影響が感じられます。</p> <p>食事については、年齢に応じた形態で、食事時間に配慮した配膳を行い、適温給食を実施しています。子どもの状況に応じた食事量の加減もできています。病後、回復期の配慮食マニュアルがあり適切に対応しています。</p> <p>離乳食の個別連絡書を作成し、子どもの状況に応じて対応しています。また、保護者、栄養士、保育士との連携もできています。</p> <p>保育の内容は、年齢や個々の状況にあわせています。基本的な生活習慣については、自主性を尊重し自立に向けた対応に配慮しています。プログラムについては、天候や日々の子どもの要求や反応の様子を見ながら臨機応変に対応しています。</p>	
	個々から	a	<p>季節行事を始め、保育園の立地条件を生かしたプログラム「干し柿づくり」をしています。地域の方々の協力や提供もあり例年行事として続けられています。近隣自然に恵まれているため、散歩に出かけたり、畑を借りて季節野菜をつくり自然にかかわる機会をつくっています。</p> <p>楽器については、夏祭りの太鼓が大きな取り組みとなっています。</p> <p>動物の飼育については、ウサギの飼育が二代目となり続けられています。</p> <p>本の読み聞かせや紙芝居・手遊び歌は一日のプログラムの中に自然に取り組みられています。日課の切り替え時に子ども達が自由に参加できる場面を設けています。</p> <p>地域の子育て支援は、正門に掲示板をもうけたり、園舎内外にコーナーを置き、パンフレットなどで情報提供しています。園だより、給食、健康だより、献立表及び他機関の情報提供は充実しており、利用者が自由にもっていけるようなサービスはとてもよいものです。また、見学者の相談に時間をかけ対応しています。</p> <p>毎月第一火曜日に保育福祉センターの「クッピーのへや」で出張保育をしています。その際、園庭開放のお誘いや色々な相談に応じています。保育福祉センターの職員と密に情報交換しています。</p> <p>地域活動事業は年間計画に定め、年に一回、移動動物園を行ったり、おもちゃ、遊具の充実を図っています。</p>	<p>玩具については質量的に少ないので、玩具の入れ替え・整理、不足している物の購入などの検討を望みます。</p> <p>また太鼓のほかに年齢に応じた様々な楽器に触れる機会を設けることを望みます。</p>

人権への配慮

中項目	評価	評価の理由(コメント)
利用者の権利の擁護	a	<p>子ども達が自由に意見を発言する雰囲気があり、一人ひとりの意見を受け止め、他の子どもの気持ちや意見が聞けるよう、声掛けや見守りをしています。一人ひとりを尊重することについては、幼児クラスでは折に触れて話し合う場を設け、気づきの促しをしています。人権への配慮やお互いの尊重については、子ども達同士の中で仲間はずれにしないような差別をしないよう配慮しています。</p> <p>男女平等の人権意識は折々に配慮しています。呼び方についても固定観念で統一せず、職員同士で確認し柔軟に対応しています。性差については、子ども達分かりやすいよう、洋服や持ち物の色を通して教えています。赤やピンクは女の子、青や緑は男の子といった固定観念をもたないよう日々の保育で配慮しています。性差への対応について職員会議で職員に周知していますが、保護者に対しても固定観念で子どもに話しかけることがないように、「園だより」に掲載するなど身近な話題として提供することを望みます。</p> <p>他国の生活習慣や考え方については、特別配慮を必要とする状態ではありません。肌の色の違いについては、3歳児になると説明内容を理解しているようです。両親どちらかが外国人という子どもに対しては、歴史的・社会的背景を理解し相互に尊重する心を育てる取り組みを期待します。</p>
プライバシーの保護	a	<p>個人のプライバシー情報等の機密情報の守秘義務については、職員講習を年に1回実施して職員の意識強化を図っています。また、個人ファイルは鍵をかけて管理しています。シュレッダーを用いて資料廃棄時の機密漏洩を防止しています。</p> <p>個人情報保護に関する対応状況については、毎年8月に川崎市の規定によりチェックを行い報告しています。</p>
身体拘束、体罰、虐待の防止への取り組み	a	<p>児童相談所や保健福祉センターと連携する体制を整えています。児童虐待と疑われるような兆候を見つけたときには、すぐに報告する体制があり関係機関と連携して対応しています。児童相談所の職員が、定期的に来園したり連絡をしたりしています。</p> <p>登降園時の親子の言葉がけや接し方などのやり取りの様子を細かく観察しています。乳児や幼児の身体にも目を配り、あざや火傷などに注意して観察しています。あまり登園しない子どもに対して連絡を取り、登園してくるよう働きかけをしています。職員は必要に応じてケース検討を行い、その情報を職員で共有しています。</p> <p>虐待に対応するマニュアルがあります。マニュアルの読み込みは十分ではありませんが、自己評価の取組みの中で内容を確認しています。</p>

<p>生活の場としての環境整備</p>	<p>自然光が十分に入る環境です。日差しが強いときにはカーテンで調整しています。各部屋の天窓を利用して換気に注意しています。保育室には、温度計と湿度計があり、外気温に配慮しながら調整をしています。加湿器は安全性が問われているため使用していません。手ぬぐいやタオル、洗面器に水を張る、あるいは観葉植物を置くなどして湿度を保とうと努力していますが、適度な湿度を保つには至っていません。押入れの換気については午睡時に開けて、スノコを敷いて対応しています。</p> <p>園舎は築後30年以上と古いものの、職員の手で保育室はもちろん玄関や廊下、階段に至るまで、とてもきれいに掃除が行き届いています。トイレは日中に消毒しています。教材庫は、どこに何があるのかすぐ分かり取り出せるよう、きれいに整理整頓がされています。</p> <p>安全点検や衛生管理については、月1度の実施の際必ず職員が3～4名で見回るなど、出張等で対応できない時にもなおざりにしない取組みをしています。砂場は使わないときはブルーシートで覆い、園庭整備の一環として砂の掘り起こしは月に1回、砂掃きは週に1回実施しています。2年に1度程度砂入れを実施しています。木のベンチやキッズハウス(手作りの小さな家)、三輪車、シャベルなどの補修や手入れの内容を用務員日誌に記録し、補修の状況を職員会議に諮り、安全管理や衛生面に対する意識を高めています。</p> <p>0歳児の玩具は毎日洗い、乳児の玩具は流水で洗い日光消毒をしています。幼児の玩具は必要に応じて洗っています。寝具の消毒や乾燥を定期的に行っています。年度末に布団乾燥を業者に依頼しています。</p> <p>安心して過ごせる環境設定を心がけています。部屋の広さに応じて静と動の遊びを設定し、子どもが落ち着けるよう配慮して、遊びの場の確保を作る工夫をしています。乳児の部屋には、カーペットやじゅうたんが敷かれています。</p> <p>散歩や園庭を通して植物の観察にはいい環境にあります。園の周りには、緑が豊かで畑もあって季節を感じることは事欠きません。花壇には、子ども達が摘んでもいい花やコスモスやチューリップを植えました、ゆずら梅や柿が実り食べたり觀賞したりしています。園庭はきれいに整備されており、子ども達が活動しやすくなっています。アスレチック風にしたり工夫しています。危険な場所は、布団で覆うなど配慮をしています。園庭での活動時には、必ず職員が付き添います。ジャングルジムなどの遊具で子どもが遊ぶときには、必ず職員1名が遊具の側についています。</p> <p>クラスの装飾は保育計画に組み入れ、子どもの絵画や制作物、散歩での収穫物を取り入れています。子ども達の手作りのステンドクラスや雪だるま、クリスマスツリー、などが貼られています。</p>
---------------------	--

利用者の主体性・個別性の尊重

中項目	評価	評価の理由(コメント)
利用者満足度の向上への取り組み	a	<p>子ども達の要求や訴えは言葉で聞くだけでなく、年齢や個々の状態に合わせて受け入れています。受容の仕方については、職員全員で話し合い、一貫性をもって対応するよう努めています。クラス専任でない職員がパイプ役となるフォロー体制が整っています。</p> <p>基本的な生活習慣については、自分でやると言う気持ちに沿って援助しています。家庭とは乳児は連絡ノートを活用し、幼児は手紙などで連携をとっています。</p> <p>排泄については、散歩や食事前・午睡前・おやつ時に声掛けしますが、一人ひとりのリズムに応じて対応することに心がけています。午睡は全員が布団で睡眠をとります。乳児、特に0歳児については、一人ひとりの睡眠に合わせて、おんぶしたり、いつでも睡眠が取れるように布団を用意しています。</p> <p>遊びについては、発達に応じた工夫や遊びを発展させる配慮をしています。昼食が終了して午睡の準備が整うまで、自由に遊べるスペースを設けたり、紙芝居や読み聞かせ、手遊び歌など自由に選択してすごせるよう工夫しています。</p> <p>保育祭り、福祉祭り、出初式や各行時に参加することで、子どもが交通機関を利用しています。他の園との交流を通して子ども達の喧嘩については、中立的な立場でアドバイスすることを心がけています。状況に応じて場面の切り替えをしたり、複数の職員で1対1に向き合える配慮をしています。保護者の見学は保護者の都合に合わせて、いつでも見学可能な状態です。祖父母参観日も設けています。行事や懇談会は保護者が参加しやすいように園だよりや手紙で知らせています。</p>
利用者が意見を充分に言える体制	a	<p>保育参観の設定は保護者の都合に合わせて、いつでも可能な状態で対応しています。祖父母にも声をかけるなど、積極的にを行っています。行事後にアンケートを実施して保護者の感想等を聞き取り、次回の参考にしています。行事や懇談会は保護者が参加しやすいように、1ヶ月前には園だよりや個別にたよりで知らせています。</p> <p>子どもの発達、健康、生活状況については、登降園時に保護者に伝えることを心がけ、乳児は連絡帳に記載したり、幼児には必要に応じて手紙で知らせています。</p> <p>延長保育に引き継ぐ時は、園独自の保育引継ぎ票を活用しています。怪我などのケースでは、関わった職員が保護者に確実に状況を説明できるようにしています。いつでも保護者が気軽に相談できるように信頼関係の構築に努めています。</p> <p>クラス担任は常に家族からの連絡に対応できるように配慮しています。一人担任の時は、特に他の保育士がフォローできるような体制ができています。</p>
利用者の意見や意向への配慮	a	<p>毎年定期的開催している保護者説明会やクラス別懇談会、及び個人面談で保護者の意見・要望、苦情を確認するようにしています。苦情の窓口、苦情対応責任者を掲示し、保護者に周知しています。保護者の苦情は、直接クラス担当に寄せられることが多いことがあり、職員が苦情内容をしっかり記録することに心がけるとともに、保護者が苦情や意見を言いやすい雰囲気を作るようにしています。</p>

サービス管理システムの確立

中項目	評価	評価の理由(コメント)
経営における社会的責任	a	<p>「川崎市子どもの権利に関する条例」を遵守し、人間として大切な子どもの7つの権利を保障することを、園の保育方針に謳っています。川崎市の方針に従い待機児童の解消に対する工夫がうかがえます。</p> <p>職員会議で職務遂行における倫理規定の周知を図っています。園の運営に関しては全体職員会議、乳児、幼児グループごとの職員会議で職員に周知しています。</p> <p>苦情対応第三者委員が苦情対応の透明性を図っています。現在まで第三者委員を介しての苦情処置・公報の事例はありません。園内での苦情は会議の中で話し合い、どのように改善したか検証結果を知らせています。</p>
経営者のリーダーシップ	a	<p>今回の第三者評価の実施は、園長のサービスの質の向上に対する前向きな姿勢とリーダーシップの成果であると思われま。自己評価の実施に際しては、職員会議、プロジェクト会議を計7回実施し、職員の自主研修を4回実施するほどに力を入れました。職員全員が評価項目ごとにチェックし、園のサービス状況の確認と課題についての意識合わせを行いました。</p> <p>常に子どもの最善の利益を念頭に置いて、将来の人を育てるという視点での、園長の保育サービスの考え方が職員に徹底しています。</p>
サービスの質の向上に向けた取り組み	a	<p>指導計画は子どものケース検討記録とリンクして、一人ひとりの子どもの特質に配慮して作成しています。毎月の遂行状況を評価し指導計画の反省欄に評価結果を記述しています。職員会議で指導計画の評価状況を検討して、次の指導計画に活かすようにしています。</p> <p>子どもごとの発達状況に応じた保育情報を個人別の記録簿に記述しています。子どもの個別情報については職員会議で個別ケースの報告を行い、職員全員に周知しています。特に注意を要する子どもについては、毎日の生活状況を記録して引継ノートで職員の共通意識と注意を徹底しています。</p> <p>保育の質の向上への取り組みとしては第三者評価における自己評価の実施を通して積極的に推進してきました。職員参加による自己評価の実施が、保育の質の向上に関する職員の意識の共通化につながっています。</p> <p>全体職員会議の場で園の運営や保育状況の反省と評価を実施しています。週ごとに乳児、幼児のグループごとの保育状況の評価を実施しています。</p> <p>職員研修はニーズを前もって把握し、市の主導で実施していますが、より職員の保育現場のニーズに沿った木目細かな対応が望まれます。</p>
苦情解決のしくみの確立	a	<p>毎年定期的に開催している保護者説明会やクラス別懇談会で保護者の意見、要望、苦情を確認するようにしています。苦情窓口、苦情対応責任者を掲示し保護者に周知しています。</p> <p>苦情対応第三者委員を明確にして、保護者の苦情に客観的視点での対応を可能にしています。</p> <p>保護者の苦情は直接クラス担当の職員に寄せられることが多いこともあり、職員が苦情内容をしっかり記録することに注意し、保護者が苦情や意見を言いやすい雰囲気を作るように心掛けています。苦情内容については全体職員会議で対策の検討を行い、保護者に説明しています。</p>

危機管理体制の確立

中項目	評価	評価の理由(コメント)
安全管理・安全の確保	a	<p>地震、台風、火災等に対する危機管理マニュアルがあり、緊急時対応フローを整備しています。毎月防災訓練計画を作成し、職員周知のもとに毎月非難訓練を行っています。避難訓練は、点検項目を明確にして訓練の状況をチェックしています。</p> <p>散歩マニュアルには散歩時の防犯、事故防止の記述があります。衛生管理チェックリストを用いて衛生管理上の事故防止に努めています。</p> <p>ヒヤリハット管理の仕組みがあり、職員の気づき情報をクラス別に集計・分析して事故防止に活かしています。</p> <p>延長保育、土曜日保育及び職員の休憩時間は玄関をオートロックで不審者の侵入を防止しています。事務室は職員1名が必ず常駐する体制を敷いて不審者の進入を防止しています。</p> <p>事故発生時の対応については、「園のしおり」に記述して保護者に周知しています。保護者に対する緊急連絡表を整備して、事故発生時等の緊急連絡を行なっています。緊急時の医療機関への連絡については、園医と眼科、耳鼻科、歯科医及び救急医病院の連絡先を事務室に掲示して、緊急時の対応に備えています。災害発生時の園の災害避難場所及び広域避難場所を園のしおりに掲載して、保護者や関係者に周知しています。</p>

地域との交流・連携

中項目	評価	評価の理由(コメント)
地域住民やボランティアの交流の場の提供	a	<p>小・中学生の職場体験学習の生徒やボランティア学生を受け入れています。実習生受け入れと体験ボランティアオリエンテーションのマニュアルが整備されています。マニュアルには園内での言葉遣いの注意点や、個人情報保護に関する規定等が記述されています。</p> <p>実習生の受け入れについては異年齢交流の機会と捉え、子ども達が実習生の来訪時は表情が豊かになるということも踏まえて積極的に受け入れています。受け入は事前に学校側と打ち合わせをもち、子どもの保護者に対しては、保育説明会の場で実習生受け入れの意義を説明して協力を求めています。実習生受け入れの前に園便りと掲示板で知らせています。</p>
関係機関との相談・連携	b	<p>各種行事が地域住民の協力のもとに実施され、家庭保育福祉員との連携保育の協力体制があるなど、地域の関係機関との協力関係の強化に努めていますが、必ずしも十分とは言えません。</p> <p>地域の民生・児童委員との協力関係の強化に努めていますが、必ずしも満足できるものではありません。幼児教育センター主催による話し合いで小学校への見学や情報交換が進んでいます。</p>

運営上の透明性の確保と継続性

中項目	評価	評価の理由(コメント)
理念や基本方針、中・長期計画の策定及び職員や利用者への周知	a	<p>保育理念や保育基本方針を明文化して職員に周知しています。園のしおりに掲載して保護者への周知を図っています。</p> <p>保育計画は保育理念・保育基本方針に基づき、保育目標を定め、園の環境や特徴を踏まえて作成しています。毎年定期的に行う保護者説明会やクラス別懇談会での保護者の意見や要望を保育計画に反映しています。菜園の提供を受けたり各種行事に関する地域との協力関係もあり、それが保育計画に反映されています。</p> <p>職員会議の議事録に保育基本方針についての周知の記録があります。保育計画の職員配布をチェック表で管理し、職員への周知を徹底しています。保護者に対しては保護者説明会やクラス別懇談会で保育計画の説明をして周知を図るとともに、園だよりでも説明しています。</p>
情報開示への取り組み	a	<p>保護者に対する園情報の提供は、年に1回開催の保護者説明会やクラス別懇談会で実施しています。園だよりや各種行事のパンフレット、掲示板を活用して保護者や地域住民に園の活動情報を提供しています。園だよりは保護者に配布するだけでなく、100部以上を地域の関係機関や関係者に配布して園の活動内容を紹介しています。</p> <p>子どもが描いたポスター等を町内各所の掲示板に掲示して、園の活動を地域の人たちに知ってもらうように取り組んでいます。</p> <p>川崎市のホームページに園の保育方針、年間行事計画及び園の特徴等を掲載し市民への情報開示を行なっています。</p>
経営改善への取り組み	a	<p>運営改善の課題はリーダー会議、職員会議で提起し対策を検討しています。経営改善の効率化の取組みとしては、特に職員の時間の有効活用については注意を払っています。課題対策の実施状況については、期ごとに見直しを行っています。年に1回家族アンケートを実施して保護者の施設運営に関する要望や課題を把握しています。</p> <p>衛生管理チェックリストなどを活用して、園の運営上の課題を常時チェックする取組みを行なっています。</p>

職員の資質の向上

中項目	評価	評価の理由(コメント)
職員の資質向上に向けた研修の充実	a	<p>研修計画及び研修の実施は職員の経験年数を考慮して、市の指導に従って実施しています。研修の成果は職員に回覧し周知しています。研修内容も保育士、栄養士研修、調理や食品衛生に関するものなど多岐に及んでいます。</p>
職員の処遇・就業環境への配慮	a	<p>職員の担当職務の決定について、本人の希望を尊重する仕組みがあります。毎年定期的に職員アンケートを実施することにより、人材育成計画に職員の意見・希望を反映しています。年に4回園長が職員と個別に面談して職員の就業に関する意見や希望の確認を行なっています。</p>
職員の参加によるサービス内容の点検・評価	a	<p>全体職員会議及び乳児、幼児各職員会議、フリーリーダー会議、給食会議、看護師会議、用務員会議が定期的に行われ、職員が意見を自由に言える仕組みがあります。</p> <p>毎月の全体職員会議の場が、園の運営状況、保育状況の反省と評価を行なう場になっています。評価項目を事前に設定し、週ごとに乳児、幼児のグループごとの評価を行なっています。</p>

サービスの実施内容

中項目	評価	評価の理由(コメント)
健康管理・食事	a	<p>健康に関する項目については「川崎市保育園健康マニュアル」があり、利用者に対して日々の視診や保健日誌への記載、看護師と保育士の連携などきちんと対応がされています。ベテランの保育士や看護師がしっかり把握しており、預ける保護者にとっては安心できます。ただ、マニュアルの活用や見直しがなされていない面があります。今後の取り組みに期待します。</p> <p>「すこやか手帳」を見直し、健康診断の結果の報告は迅速かつ正確であり、漏れもなく保護者に伝えており園独自の取り組みとして特筆できます。</p> <p>除去食に関しては、やるべきことをきちんと実施しています。除去食の申請書類は、必ず看護師や栄養士、保育士が確認をして、最後に園長が確認しています。除去食内容の変更は、栄養士が保護者の面談で確認を取り、保育士に周知しその記録は個人記録に記載されます。</p> <p>衛生面について保育園給食の手引き、衛生管理チェックリストや園独自の給食作業マニュアルがあり問題はありませぬ。</p> <p>栄養バランスや新鮮な食材、食器は安全面においても栄養面においても問題はありませぬ。適温給食への配慮はもとより、季節感ある食材、旬の物、食文化の伝承にいたるまで対応ができています。なによりも食材への関心(さつま芋や干し柿の取り組み)や食べる意欲を育てる取り組みとその対応、食事マナーの指導はすばらしい保育の実践がうかがえ特筆できます。調理担当者との喫食も子どもにとって良い影響が感じられます。保護者アンケートからも給食に関して賞賛の声が寄せられていました。</p> <p>子どもの喫食状況について連絡が必要な場合は、連絡帳や口頭、文書で伝えています。子どもの状況に応じて食事量の加減もできています。病後、回復期の子どもの対応も配慮食マニュアルがあり適切に対応しています。</p> <p>離乳食の個別連絡書を作成し子どもの状況に応じた対応が取れ、保護者、栄養士、保育士の連携もできています。これらの対応が、保護者が子どもを預けるときの安心感につながっています。楽しい雰囲気の中で、笑顔一杯の子ども達とおいしい食事を体験することができました。今後も子どもに安全でおいしい給食の提供を望みます。</p>
保育内容	a	<p>基本的な生活習慣については、自分でやるという気持ちに沿って援助しています。食事や睡眠・排泄など、特に乳児クラスでは個々のペースに合わせた工夫や配慮がされています。受容の仕方については、職員全体で話し合い、一貫性をもって対応するよう努めています。クラス専属でない職員がパイプ役となるフォロー体制が整っています。</p> <p>保育プログラムについては、天候や日々の子どもの要求や反応・様子を見ながら臨機応変に対応しています。</p> <p>玩具については、質量的に少しすくないので、今後は玩具の入れ替え・整理、不足している物の購入等の検討を望みます。</p> <p>季節行事(七夕・もちつき)などをはじめ、保育園の立地条件を生かしたプログラム「干し柿づくり」をしています。地域の方々の協力や提供もあり例年行事として続けられています。</p> <p>近隣が自然に恵まれているため、散歩に出かけたり、畑をかりて季節野菜をつくり、自然にかかわる機会をつくっています。他に地域交流として、保育祭り、福祉祭り、出初式や各行時に参加することで交通機関を利用しています。他の園との交流などを通してルールやマナーを学び社会性を養っています。</p> <p>楽器については、夏祭りの太鼓が大きな取り組みとなっています。さらに今後年齢に応じて各種の楽器に触れる機会を設けることを望みます。</p>

		<p>動物の飼育については、長年飼育していたウサギの「チョコ」が9月に亡くなり、子ども達は大いに悲しみ命の尊さを学びました。会議で検討し今後も飼育していくことを確認し、保護者の協力もあり現在新しい「チョコ」と生活しています。本の読み聞かせや紙芝居・手遊び歌は一日のプログラムの中に自然に取り組みられています。日課の切り替え時に子ども達が自由に参加できる場面も設けています。</p> <p>人権への配慮やお互いの尊重については、折にふれ、子ども達同士の中で仲間はずれ、差別をしないよう耳を傾け配慮を怠りません。性差への意識は身近なものを通して学ぶ機会としています。</p> <p>外国人市民への配慮は、実際に利用している保護者がいないので現実的な取り組みはありませんが、いつでも対応できるような心がけや準備を今後望みます。</p> <p>長時間保育は保育室を決めています。部屋や担当者が替わる事で緊張感があるため、不安にならないような工夫を心がけています。引継ぎに関しては漏れがないよう、引き継ぎノート等を活用して担当者に詳細に伝えています。重要事項は担当者が残って説明したり、電話を入れたりして対応しています。</p> <p>障害児保育については、入園前に障害児と保護者のかかわりを知り、会議を通して対象児を十分理解するよう努めています。保育内容・援助内容は療育センターとの連携をしながら、検討・見直しをしています。保護者が心配事などを気軽に相談できる雰囲気作り、専門機関への投げかけ情報を共有できるようにしています。</p>
<p>多様な子育てニーズへの対応</p>	<p>a</p>	<p>乳児保育、延長保育、障害児保育、連携保育を実施しています。</p> <p>連携保育は家庭保育福祉員(保育ママ)が研修等で子どもを保育できない時に、子どもを保育園で預かり保育しています。</p> <p>緊急入園は定員オーバーでも工夫して入園できるように配慮しています。</p> <p>通常保育から延長保育への引き継ぎは、引き継ぎノートを作成して漏れがないよう配慮しています。</p>

<p>地域の子育て支援</p>	<p>a</p> <p>子育て相談をする体制はできていますが、地域の方からの問い合わせはほとんどないのが現状です。 正門前に季節感あふれる装飾やレイアウトを施した掲示板を設置したり、園舎内外にコーナーを置き、パンフレットなどで情報提供しています。 園だよりや給食、健康だより、献立表及び他機関の情報提供は充実しており、保護者が自由にもっていけるようなサービスはとてもよいものです。 最近の特徴の一つは、見学者の相談に時間をかけ対応しているところです。園庭開放や園の行事へのお誘いまた、保育参加希望者の受け入れは随時しています。ほとんど毎日通ってくる親子がいたりトリピーターが多いのが特徴です。受け入れに関しては、オープンであり違和感なく参加しています。特別なことを企画しなくても、遊んでいけるので継続して参加できているようです。 夏のプールにも、ぎょう虫検査を行って検査結果に問題なければ一緒に遊んでいます。 保健福祉センターの「クッピーのへや」で毎月第1火曜日に出張保育をしています。出張保育の際、園庭開放へのお誘いや色々な相談に応じています。保健福祉センターの職員と密に情報交換を行っています。 地域活動事業は年間計画に定め、年に一回運動会や焼き芋会に参加しました、移動動物園を行ったり、おもちゃや遊具の充実を図っています。</p>
-----------------	--

事業者コメント

上麻生保育園

第三者評価を受けるに当たり、職員一人ひとりが緊張感を持って真摯に取り組んできました。最初に自己評価を行い、その集計結果からばらつきの多い評価項目を重点的に意見交換してきました。その中で、取り組みの弱い部分が浮き彫りになり、今後の課題となりました。この点は第三者評価機関からの評価結果とほぼ同様でありました。第三者評価は怖いものではない。弱いところの気づきを与え、資質向上に向けて取り組むところに意義があるといわれますが、まさしくその通りであると同感しました。次年度にその課題を園内研修として取り組んでいく共通認識を持つことができました。

太鼓以外の楽器の導入を図るご指摘については、園の中にどんな楽器があるか調査し、子ども達の年齢に応じた計画をしていくこと、楽器以外の表現活動についても更に充実させていくことの確認をし、具体的な話し合いまで持っていくことができました。地域の関係機関等では、民生・児童委員との連携と交流の弱さのご指摘は、毎年1～2回の交流はあるもののそれ以上の発展はない状況です。この点は1園ではなく麻生区の取り組みとして発展させていく方向にあります。その他の項目については概ね良好でしたが、これでよしとせず、定期的にPCDAサイクルの手法を使い確認していきたいと考えます。

保護者アンケートでは食育の取り組みについて賞賛の声がありましたが、柿生の地域性を活かし、取り組みの計画を保育に展開・実施してきました。職員自ら

体験し、その感動を子ども達に伝えていくことが大切であり、継承していくべき内容としたい。又、食事の作り手である給食担当者が、毎日子ども達と一緒に食べているので子どもの姿を捉えた対応ができています。家庭的雰囲気が出ていると思います。

乳児の行事を増やしてほしい要望が出ていましたが、この件については、子どもの立場から保護者の立場から十分に検討し方向性を出していこうと思います。利用者アンケートは第三者評価機関の結果報告を受けてのコメントに留まりましたが、もっと多くの意見がでてしていると推測致します。時代の要望に添えていく姿勢と子どもの最善の利益を守る立場をしっかりと見極めて、より良い保育園のあり方を推進していきたいと思います。地域子育て支援事業の来園者は少ないが、リピーターは多く、園児の中に違和感なく受け入れられています。保育園の積極的な資源提供を実施していますので、是非来園して下さい。

第三者評価を受けて終わりではなく、これからが始まりと考え周知しきれなかった内容を更に確認・検討し周知に向けて取り組んでいきたいと考えています。